

宮川 昭義 先生 経済学部准教授

韓非子(1~4)

韓非子(かんぴし)著/金谷治訳注

岩波書店/1994(岩波文庫)
[B124.57 || Ka58 || 1~4]
文庫本コーナー

みなさんは、『論語』を読んだことはあるでしょうか。『論語』は、孔子が彼の高弟との会話のやりとりについて、孔子の死後、弟子達が記録した書物のことです。『論語』は『孟子』『大学』『中庸』と併せて儒教における「四書」の一つに数えられています。儒教とは、五常(仁、義、礼、智、信)をもって、自分にとって身近な五倫(父子、君臣、夫婦、

長幼、朋友)との関係を築こうとするいわゆる性善説に立った考え方が根底にあります。

これに対し、『韓非子』は、人間はそもそも生来の欲望に惑わされやすいものであり、これを厳しく律するためには、法による統治により、悪(欲望)を未然に排除することが必要であるという荀子の思想、いわゆる性悪説に立った考え方が根底にあります。ちなみに秦の始皇帝はこの『韓非子』に傾倒したとも言われています。

世の中には、様々な人生観や価値観をもった人々が社会を構成しています。すべての人々が性善説の考え方に沿って生活して

いれば、法律や制度をことさら創る必要はないかもしれませんが、現実にはたくさんの方や制度に囲まれてわたしたちは生活しています。経済学・経営学・法学・政治学などの社会科学系の勉強は、言い換えれば性悪説に沿った人々が取り得る行動を予測や分析して法や制度を創る際の根拠や論拠を見つけ出すことが目標になります。

是非みなさんも一読して見てはいかがでしょうか。案外、『論語』よりも共感できることがあるかもしれません。



◆アメリカ経済を分かりやすく

アングロサクソンは人間を不幸にする

ビル・トッテン著

PHP研究所/2000

[332.06 || To73]

第2開架閲覧室



この本は少し古いですがアメリカ経済の本質を明らかにしている。それが的を射ていることは『ルポ 貧困大国アメリカ』(堤未果著、岩波新書/2008[368.2 || Ts94]文庫本コーナー)を読めば分かる。そして『格差はつくられた』(ポール・クルーグマン著、早川書房/2008[312.53 || Kr8]第2開架閲覧室)は、アメリカ・タイプの経済が格差社会を作っていることを示している。

◆日本以外はアメリカ・タイプでない

ヨーロッパ型資本主義

福島清彦著

講談社/2002(講談社現代新書)

[332.3 || F84]

第2開架閲覧室

この本はサルコジが登場する前のヨーロッパが、アメリカ・タイプとは別の経済を目指していたことを明らかにしている。今回の「アメリカ発金融ショック」でヨーロッパは元に戻るだろう。その理由は中南米

が反アメリカになった理由と重なる。その点を明らかにしている『反米大陸』(伊藤千尋著、集英社新書/2007[319.55 || I89]第2開架閲覧室)と一緒に読んで欲しい。

◆日本経済はなぜ格差社会になったの?

拒否できない日本—アメリカの日本改造が進んでいる

関岡英之著

文藝春秋刊/2004(文春新書)

[319.1 || Se38]

第2開架閲覧室



格差が小さかった日本がもろくも崩れた理由の多くは、アメリカの日本にたいする「社会の改革要望」を政府が実行したからである。それをマスコミが必死になって隠し続けているので、この本は貴重である。日本改造の結果の1つがハケンであることについては、『働きすぎの時代』(森岡孝二著、岩波新書/2005[366.47 || Mo62]文庫本コーナー)がオススメ。

◆最近オカシイ日本経済は大丈夫?

飢餓国家ニッポン—食料自給率40%で生き残れるのか

柴田明夫著

角川SSコミュニケーションズ/

2008(角川SSC新書)

[343.3 || Sh18]

第2開架閲覧室



日本経済の入門書はできるだけ軽いモノから入るとよい。日本人の食生活が危機に瀕していることを明らかにしているこの本と、『日本は先進国』のウソ』(杉田聡著、平凡社新書/2008[302.1 || Su46]第2開架閲覧室)とがオススメ。

◆では日本の未来はどこにあるの?

逝きし世の面影

渡辺京二著

平凡社/2005(平凡社ライブラリー)

[210.58 || W46] 2階書庫

私たちが失ったものを知れば、同時に、これから目指すべきものを知ることができる。この本のタイトルはいかめしいが中身はやさしい。必読書である(1999年度の和辻哲郎文化賞受賞作品)。同じ著者の『なぜいま人類史か』(洋泉社MC新書/2007[304 || W46]第2開架閲覧室)も、ハケン切りが横行するいま是非読んで欲しい。

